

環境県民局 資 料	No. 6
--------------	-------

令和3年11月19日
課名 環境県民局わたらしい生き方応援課
担当者 課長 八百野
内線 2733

わたらしい生き方を選択するためのワークショップ事業の取組開始について

1 要旨・目的

「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、男女にかかわらず、人生のステージに応じた様々な働き方、学び方、生き方を実現する人が増えることを目指して、エソール広島と連携し、大学生等の若い世代が課題解決策を探り、実践に繋がられるよう、新たな参加型講座（ワークショップ）を開催した。

2 現状・背景

性別に関する意識に影響されることなく、自分らしい暮らしを実現できていると感じる割合は、30歳代以降、様々なライフイベントを経験することで下がってくる傾向がある*。この低下する傾向の主な要因の一つとして考えられる、意識の根底にある「性別に関する固定観念」を解消し、多様な暮らし方の実現に向けた理解促進が必要である。

*R3 わたらしい生き方応援課が実施したインターネット調査

3 概要

(1) 実施主体

広島県（受託先：公益財団法人 広島県男女共同参画財団）

(2) 実施期間（日時）

第1回：令和3年9月21日（火）、第2回：10月1日（金）各18：30～20：00

(3) 場所

Zoomによるオンライン開催（配信元：エソール広島）

(4) 実施内容

①内容

第1回：意見交換

（性別に関する固定観念や「男らしさ、女らしさ」の違和感などについての意見交換）

第2回：検討・発表

（誰もが自分らしい選択をできるようになるための課題と解決策を検討し意見交換）

②参加者

大学生（17名）や20歳代の社会人（9名）

各回26名（うち男性11名）

③ファシリテーター

まるやま のりこ
丸山 法子（社会福祉士）



4 その他（関連情報等）

(1) ワークショップの中で出た参加者の意見等

①「男・女らしさ」に対する思い込みや違和感

（就職・仕事）

- ・女性は就職活動ではメイクやタイトスカート等の着用が必要であり，男性は就職というと地元で家を継ぐというイメージがある。
- ・保育士をしているが，男性保育士がとても少ない。男性ということで，子供の世話等について保護者から心配されたりする。
- ・社内婚でも結婚後退職するのは女性，育休を取るのも女性だと感じる。
- ・料理人など何事もプロフェッショナルは男性が多いと感じる。
- ・女性自身の意識にも「管理職＝男性」というものがあると感じる。

（家庭・結婚・子育て）

- ・保育園のお迎えで，最近はお父さんが多くなり，育児に参加し始めたと感じる。
- ・家事や育児の全てを母親が担っていて，幼いころから疑問に思っていた。
- ・ライフプランについて話をされるときは結婚を前提にしていると感じる。

（メディア）

- ・小さい子供が見るアニメには，伝統的な家族像が映し出される。
- ・ドラマなどにより，家庭，結婚，子育てについて植え付けられる幸せの形があると感じる。

②感想等

- ・「らしさ」の押し付けや性別役割について敏感に察知して，少なからず生きづらさを感じていることが心に残った。
- ・性別役割について同じ違和感を持つ仲間を見つけて話をするこも，性別役割意識の是正に向けた第一歩だと感じた。
- ・女性側だけでなく，男性側の意見を聞いたのはよい経験だった。また，普段，友人達とこういった話をする機会がなかったので，些細なことでも「男・女らしさ」を感じることがあるのだと改めて思った。
- ・家庭内の役割は両者の合意のもと，ライフスタイルに合った分担をしていくべきだと思う。
- ・これまでジェンダー平等に注意を払っているつもりでいたが，意識せず男女の役割を求めていることがあるかもしれないと気付かされた。
- ・今回出た課題解決策をもっと練った上で，企業経営層と意見交換することで，お互いが課題認識の差に気付き，今後多くの人に影響を与えられるのではないかと。

(2) 今後の展開

参加者から出された意見等を基に，参加者と，社会や地域，家庭等で性別に関わりなく活躍されている方との意見交換を行う交流会を開催予定。それを通じて，課題について深掘りし，課題解決策をブラッシュアップさせ，参加者等による自主的な活動に繋げていく。